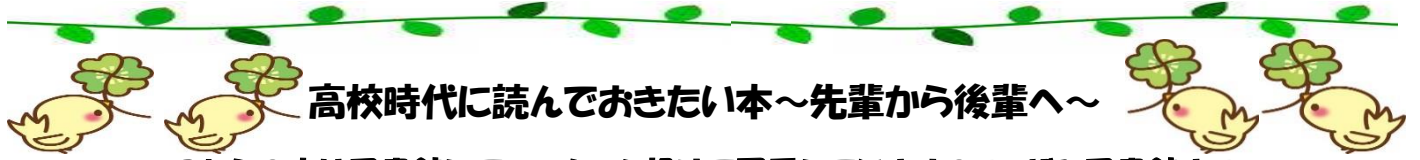


図書館だより



武雄高等学校 図書指導部
令和元年 5月 17日発行

中間考査お疲れ様でした！！今回は、3年生の図書委員が“高校時代に読んでおきたい本”を紹介します♪1,2年生のみなさんが楽しめるような作品を選んでもらっていますので、ぜひ読んでみてください！^ ^



高校時代に読んでおきたい本～先輩から後輩へ～

これらの本は図書館にてコーナーを設けて展示していますので、ぜひ図書館まで

A) 『いつか別れる、でもそれは今日ではない』 F【著】 (KADOKAWA)



おすすめポイント沈んだ気分を紛らわすのに役立つ本。元気な時に読むのではなく、ちょっと疲れたときに手に取る方が効果的。人付き合いや仕事のこと、恋愛のこと。そういうものについてのエッセイ集で、作者の独特の(そして勇気づけられるかもしれない)見解を楽しむことができる。文章もさることながら、はしばしに挟まる写真もエモーショナルでかっこいい。何度だって味わいたくなるような、そんな素敵な本。

B) 『いい言葉は、いい人生をつくる』 斎藤 茂太【著】 (成美堂出版)



おすすめポイントこの本は、作者である斎藤さんが出会ってきた数々の言葉を紹介しながら人生の楽しみ上手になるコツをまとめた本です。一つ一つの話が短いので、文章を読むことが苦手な人にもおすすめできる一冊です。この本には、ためになるいい言葉がたくさん詰まっています。ぜひ、読んでみてください。

C) 『平成くん、さようなら』 古市 憲寿【著】 (文藝春秋)



おすすめポイント平成の終わりと共に安楽死を遂げたいと告げてきた主人公である愛の彼氏の「平成くん」。まさに「平成人」と形容されてもおかしくない内実と容姿の平成くんは、何故、そんなことを提案したのか、彼に一体何があったのか。愛は理由を探しながらも、平成くんと2人で死について向き合っていく。現代社会での”生”とは何を問う作品でありながら、どこか平成を生きる2人らしい恋愛をする作品だと感じる事が出来るだろう。今を生きる私たち、そして、大人よ、新たな元号を迎える今、少しでも平成をふりかえってみてはどうだろうか。

D) 『妖怪アパートの幽雅な日常 (全 10 巻)』 香月 日輪【著】 (講談社)



おすすめポイント共同浴場は地下洞窟にこんこんと湧く温泉、とてつもなくうまいご飯を作ってくれる「手首だけの」賄さん——13歳で両親を失った俺が高校進学と同時に入居したのは人呼んで“妖怪アパート”！次々と目の当たりにする非日常を前に、俺の今までの常識と知識は砕け散る。

◇新任の先生方のおすすめの本紹介◇

①高尾 和範教頭先生（国語）

『海に見える理髪店』〔第 155 回直木賞受賞作品〕

荻原 浩【著】 （集英社）



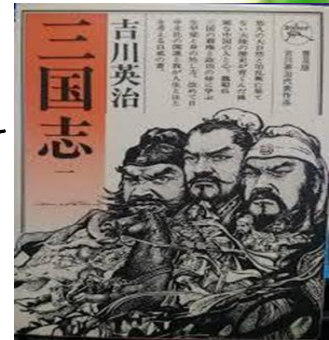
<おすすめポイント>

短い作品ですが、最後まで読んだら必ず最初からまた読みたくなる作品です。最初は、何気なく読み過ぎてきた「あれ」や「これ」、そして「あの言葉」が、最後に作品の中ですべて意味を持って繋がってきます。是非、読んでみてください。

②谷 匡先生（地理）

『三国志』〔全 10 巻〕

吉川 英治【著】 （六興出版）



<おすすめポイント>

漫画も含め、数ある『三国志』の中で最も読みやすい。読め！

《新着図書案内》

『わたし、定時で帰ります。』

朱野 帰子【著】 （新潮社）



絶対に定時で帰ると決めている会社員の東山結衣。非難されることもあるが、彼女にはどうしても残業したくない理由があった。仕事中毒の元婚約者、風邪をひいても休まない同僚、すぐに辞めると言い出す新人…。様々な社員と格闘しながら自分を貫く彼女だが、無茶な仕事を振って部下を潰すと噂のブラック上司が現れて!?

『平成の終焉～退位と天皇・皇后～』

原 武史【著】 （岩波書店）



平成とは天皇制の新たなスタイルが確立された時代だった。天皇明仁と皇后美智子が生み出した「平成流」は退位後も受け継がれるのか。皇太子（妃）時代からの足跡をたどり、「象徴」と国民との奇妙な政治的関係性を問う。

お知らせ中間考査後から 1,2 年生図書委員のカウンター当番が始まりますので、最初の 2-1 の図書委員さんは忘れずに!! カウンター当番は毎週木曜の昼休みです!!